



市民社会創造ファンド

1. 組織紹介

市民社会創造ファンドは、新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立されました。

このファンドは、個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織（インターメディアリー）で、現在、右の3種のプログラムを実施しています。

基盤強化プログラム

各地のNPO支援組織の基盤強化を図ることを目的に、ファンドが自主的に調達した資金を財源として、NPO支援組織が行う特定の目的の活動に対して、助成などを実施

特定目的プログラム

個人や企業などからの当ファンドへの特定の目的を指定した寄附や助成金を財源として、個別のNPOが行う特定のテーマの活動に対して、助成などを実施

協力プログラム

企業や財団に協力し、個別のNPOが行う特定のテーマの活動に助成するためのプログラム開発や公募・選考などの助成業務を受託により実施

※これらの他、NPO支援プログラムの開発や助成実施に関する専門組織として、市民社会のための資金づくりに関する相談に応じています。お気軽にご相談ください。

2. 助成事業（特定目的プログラム・協力プログラム）

企業や財団が取り組むNPO（市民活動団体）を対象とした助成プログラムの企画開発や公募・選考などの助成業務に、市民社会創造ファンドが寄附を受けて、あるいは協力して取り組んでいる助成プログラムを紹介します。

ファイザー・プログラム

心とからだのヘルスケアに関する

市民活動・市民研究支援（2000年開始）

「心とからだのヘルスケア」の領域で、未来に向けての長期的な展望のある独自の活動や研究への取り組みを支援します。

- 対象団体：日本国内で活動するNPOなど
- 応募時期：毎年6月頃
- 実施企業：ファイザー株式会社

中央ろうきん助成プログラム

個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり

（2002年開始）

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持って共に生き、人間味ゆたかな社会としての「まち」をつくり、多様な生き方を認め合う「くらし」の実現をめざす活動を応援します。

- 対象団体：関東1都7県で活動する市民団体など
- 応募時期：毎年1月頃
- 実施企業：中央労働金庫（中央ろうきん社会貢献基金）

「ダイワ SRI ファンド」助成プログラム

“いのち”に取り組む

NPOスタッフの育成（2006年開始）

ひとの“いのち”（生命、生活、尊厳）に取り組むNPOの専門性と活動の質の向上をめざして、スタッフと組織の育成を支援します。

- 対象団体：日本国内で活動するNPOなど
- 応募時期：現在は継続助成のみ対象
- 寄付企業：大和証券グループ3社

Panasonic NPO サポート ファンド

子どもたちの健やかな育ちを応援する

NPOの基盤強化（2006年開始）

子どもたちに関わるNPOが安定的で継続的に活動できるよう、そのようなNPOに関わる「ひと」「場所」「サービス」などの基盤強化を応援するものです。

- 対象団体：子どもたちの健やかな育ちを応援するNPO
- 応募時期：毎年7月頃
- 実施企業：パナソニック株式会社

花王・コミュニティミュージアム・プログラム

博物館・美術館等を拠点とした

市民活動の応援（2007年開始）

地域に根付いたミュージアムを拠点とした市民活動が活発化し、地域の文化が発展することを期待して、活動および団体間の交流を応援します。

- 対象団体：ミュージアムを拠点に活動する市民団体等
- 応募時期：毎年5月頃
- 実施企業：花王株式会社

タケダ・ウェルビーイング・プログラム

長期療養の子どもたちに“生きる力”を

（2009年開始）

病氣と闘う子どもとその家族の心理的・文化的・社会的な生活の質を向上させ、生きるちからにつながるよう、長期にわたり病気療養する子どもとその家族を支援する市民活動を支援します。

- 対象団体：日本国内で活動するNPOなど
- 応募時期：非公募（計画型助成）
- 寄付企業：武田薬品工業株式会社

3. インターンシップ事業 (基盤強化プログラム・特定目的プログラム)

SSCS(Small Schools for Civil Society)インターンシップ奨励プログラム “NPOの現場を市民社会の小さな学校に”

このプログラムは、個人の篤志に基づき、大学・大学院やさまざまな場で学ぶ若者が、自発的かつ意欲的にNPOでのインターン活動を行い、社会的な視野と志を持つ「市民社会人」として成長することを願って行うものです。学業の傍ら、責任を持って継続的に1年間または9ヵ月間、NPOの現場で活動するインターンに対し、年間400時間を上限に奨励金を助成します。

- 活動期間：毎年6月21日～翌年6月20日(または3月20日)
- 公募時期：毎年4～5月(公募人数10名程度)
- 受入NPO：首都圏の現場型NPOおよび各地のNPO支援組織(2009年度は8団体)

4. 自主プログラム (基盤強化プログラム)

以下のプログラムは、当ファンドへの寄附や会費を財源とし、ファンド独自の事業として取り組むものです。

●NPO支援組織スタッフ強化助成

全国各地で活動を展開している民間のNPO支援組織の基盤強化に向け、それら人材の力量形成を図ることを目的として、以下の二種類の助成を行ないます。

(1) 講師招聘費助成・・・

民間の非営利組織が自主事業として取り組む、全国または地域ブロック単位で実施される、NPO支援組織スタッフ向けの優れた研修プログラムに対して、外部講師の招聘費(謝金・交通費・宿泊費)を助成。

(2) 参加者交通費助成・・・

当ファンドが必要と認めた研修プログラムに参加する民間NPO支援組織スタッフの交通費と宿泊費の一部を助成。

●市民活動の“助成担当者”交流会

市民活動やNPOの助成に取り組む助成財団や企業、行政機関、NPO等の実務担当者の交流・研修の機会として、年1回程度の研修・交流会を実施しています。

[役員構成]

運営委員長：

山岡 義典(日本NPOセンター 代表理事/法政大学 現代福祉学部教授)

副運営委員長：

安藤 雄太(東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー)
渡辺 元 (トヨタ財団 プログラムディレクター/立教大学 大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授)

運営委員：

片山 正夫(セゾン文化財団 常務理事)
田中 皓 (助成財団センター 専務理事)
茶野 順子(笹川平和財団 常務理事)
中村 陽一(立教大学 大学院 21世紀社会デザイン研究科/法学部 教授)
松原 明 (シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 常務理事・事務局長)

監事：

雨宮 孝子(内閣府公益認定等委員会 常勤委員)
平野 毅 (公認会計士)

[組織概要]

名称：特定非営利活動法人市民社会創造ファンド
設立：2002年4月1日(法人登記:2002年9月18日)
所在地：〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267-B
TEL. 03-3510-1221
FAX. 03-3510-1222
URL: <http://www.civilfund.org>



- ・JR「東京駅」丸の内北口より 徒歩5分
- ・地下鉄 東西線「大手町駅」B3出口直結
- ・地下鉄 丸の内線・千代田線・半蔵門線・三田線「大手町駅」も利用可
- ・地下鉄の各駅は地下通路で連絡可

市民社会創造ファンドにおける市民活動助成プログラムの概要※1

2009.12.31 現在

助成主体	ファイザー株式会社	中央労働金庫 (中央ろうきん社会貢献基金)	フィリップ モリス ジャパン 株式会社	大和証券投資信託委託株式会社 大和証券株式会社 大和証券 SMBC 株式会社	パナソニック株式会社	花王株式会社	武田薬品工業株式会社	日系米国人ハマダ氏 (個人)
事業名称	ファイザープログラム (第2期)	中央ろうきん 助成プログラム	フィリップ モリス ジャパン 市民活動～住民活動助成	「ダイワSRIFアワード」 助成プログラム	Panasonic NPO サポート ファンド【子ども分野】	花王・コミュニティ ミュージアム・プログラム	タケダ・ウェルビーイング・ プログラム (計画型)	ハマダ基金プログラム (計画型)
テーマ	心とからだのヘルスケアに関 する市民活動・市民研究支援	個性が輝く“ひと・まち・ くらし”づくり	生きる場としての コミュニティづくり	“いのち”に取り組む NPOスタッフの育成	子どもたちの健やかな育ちを 応援するNPOの基盤強化	博物館・美術館等を拠点とした 市民活動の応援	長期療養の子どもたちに “生きる力を”	生活上の困難をもつ人々の 救援
助成対象の 要件 (対象地域・他)	全国	関東8都県 (茨城・栃木・群馬・埼玉・ 千葉・東京・神奈川・山梨)	全国 (06年より継続助成のみ)	全国 (06年はパイロット事業とし て首都圏のみを対象とした)	全国	全国	全国	全国
募集期間	新規：2009.6.1～6.15 継続：2009.8.24～8.31	2009.1.5～1.20	特別：2008.11.5～12.2	2008.11.6～11.20	2009.7.17～7.31	2009.5.14～5.28	(非公募)	(非公募)
助成期間	2010.1.1～12.31	2009.6.1～2010.5.31	特別：2009.2.1～3カ年以内	2009.4.1～2010.3.31	2010.1.1～12.31	2009.10.1～2010.9.30	2009.10.1～2010.9.30	2009.4.1～2010.3.31
助成金総額 [助成件数]	3,821万円を予定 [新規11件・継続12件]	1,625万円 [スタート45件・ステップアップ3件]	500万円 [特別助成1件]	1,054万円 [新規4件・継続2件]	1,500万円 [新規8件・継続4件]	1,800万円 [28件]	700万円 [4件]	350万円 [1件]
1件当り助成 限度額	300万円	スタート助成30万円 ステップアップ助成100万円	500万円	200万円	150万円	50万円	50～300万程度	上限なし
選考委員長	田辺 功 (医療ジャーナリスト) 武井 秀夫 (千葉大学 教授)	谷口 奈保子 (ばれっと 理事)	播磨 靖夫 (たんぼぼの家 理事長)	島田 京子 (日本女子大学 事務局長)	明石 要一 (千葉大学 教授)	樺山 紘一 (印刷博物館 館長)	(運営委員長) ※2	(運営委員長) ※2
備考 (特徴等)	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年より第2期プログラム開始(第1期は2001年～2008年まで) ・活動と研究への助成 ・3回まで継続助成可 ・人件費や事務局諸経費(家賃等)の助成比率を撤廃 ・中間報告会を実施 ・継続応募プレゼンテーションを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年より助成開始 ・活動への助成 ・スタート助成は3回まで継続助成可 ・ステップアップ助成はスタート助成で3年または2年間助成を受けた団体を対象 ・各都県 NPO 支援組織と労金都県本部が選考に協力 ・助成金に労金顧客からの寄付金を含む 	<ul style="list-style-type: none"> ・2004年より助成開始 ・活動への助成 ・「立ち上げ助成(9ヵ月)」「展開助成(2年)」「特別助成(最長3年まで)」の3段階に分けた中長期にわたる助成 ・08年の特別助成をもってプログラム終了の予定 ・展開助成においては中間報告会や現地訪問インタビューを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年より助成開始 ・通常活動への助成 ・人材育成を目的として人件費を中心に助成 ・継続助成も行う ・助成対象団体は定期的に人材育成レポートを提出 ・中間インタビュー(新規のみ)、終了インタビューを実施 ・09年の継続助成をもってプログラム終了の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年より助成開始 ・基盤強化事業(人材育成・拠点充実・事業開発)への助成 ・基盤強化事業に必要な費用(人件費、事務局諸経費を含む)を助成 ・最大3年まで継続助成可 ・日本国内に拠点をもちNGOの現地組織の基盤強化も可 ・中間インタビューや完了報告会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年より助成開始 ・活動への助成 ・継続2・3年目助成を実施 ・中間インタビューを実施予定(継続2年目助成のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年より助成開始 ・計画型助成(非公募)により市民社会創造ファンドより声をかけたNPOと対話しながらプロジェクトを作り上げて助成。 ・継続助成可 ・中間インタビュー実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年より助成開始 ・計画型助成(非公募)により市民社会創造ファンドより声をかけたNPOと対話しながらプロジェクトを作り上げて助成。 ・継続助成可

※1 2009年12月31日時点で助成が決定しているプログラムの現状

※2 市民社会創造ファンド運営委員長・副運営委員長の合議による。

市民社会創造ファンドにおける市民活動助成プログラムの助成件数・助成総額と選考委員長の推移

2009.12.31 現在

プログラム名 助成主体	ファイザープログラム	マイクロソフト NPO 支 援プログラム	中央ろうきん助成 プログラム	フィリップ モリス ジャパン 市民活動 ～住民活動助成	「ダイワ SRI ファンド」 助成プログラム	Panasonic NPO サポート ファンド	花王・コミュニティ ミュージアム・プログラム	タケダ・ウェルビー イング・プログラム (計画型)	ハマダ基金プログラム (計画型)	合計 (件数・助成金額)
	ファイザー株式会社	マイクロソフト 株式会社	中央労働金庫 (中央ろうきん社会 貢献基金)	フィリップ モリス ジャパン株式会社	大和証券投資信託委 託株式会社/大和証 券株式会社/大和証 券 SMBC 株式会社	パナソニック株式会社	花王株式会社	武田薬品工業 株式会社	日系米国人ハマダ氏 (個人)	
2001年 *2	12件・1,500万円 山岡 義典									12件 1,500万円
2002年 *2	24件・4,312万円 山岡 義典	7件・2,000万円 山岡 義典								31件 6,312万円
2003年	27件・5,100万円 山岡 義典	8件・2,000万円 山岡 義典	14件・ 798万円 西村 秀俊							49件 7,898万円
2004年	26件・5,511万円 山岡 義典	*3	28件・1,115万円 西村 秀俊	18件・3,148万円 播磨 靖夫						72件 9,774万円
2005年 *4	29件・5,610万円 清水幹夫/山岡義典		33件・1,240万円 西村 秀俊	16件・3,300万円 播磨 靖夫						78件 10,150万円
2006年	25件・5,118万円 清水 幹夫		39件・1,473万円 渡辺 元	8件・3,500万円 播磨 靖夫	4件・ 700万円 島田 京子					76件 10,791万円
2007年	13件・2,700万円 清水 幹夫		41件・1,528万円 渡辺 元	1件・ 500万円 播磨 靖夫	6件・1,000万円 島田 京子	12件・1,500万円 明石 要一	16件・1,000万円 樺山 紘一			89件 8,228万円
2008年	26件・4,903万円 武井秀夫/赤塚光子		41件・1,566万円 谷口 奈保子	1件・ 500万円 播磨 靖夫	5件・ 946万円 島田 京子	13件・1,500万円 明石 要一	24件・1,500万円 樺山 紘一			110件 10,915万円
2009年	23件・4,966万円 山岡義典/武井秀夫		48件・1,625万円 谷口 奈保子	1件・ 500万円 播磨 靖夫	6件・1,054万円 島田 京子	12件・1,500万円 明石 要一	28件・1,800万円 樺山 紘一	4件・700万円 (運営委員長) *5	1件・350万円 (運営委員長) *5	123件 12,495万円
2010年										
2011年										
2012年										
2013年										
累計 (件数・助成金額)	205件 39,720万円	15件 4,000万円	244件 9,345万円	45件 11,448万円	21件 3,700万円	37件 4,500万円	68件 4,300万円	4件 700万円	1件 350万円	640件 78,063万円

*1 助成年は助成実施年ベースによる(この年内に助成が始まったものの数値)。

*2 2001・2002年のファイザーと2002年のマイクロソフトは日本NPOセンターにおいて実施したもの。

*3 マイクロソフトは2002・2003年の実施のみ協力。

*4 2005年のファイザーは新規助成の委員長を清水幹夫氏が、継続助成の委員長を山岡義典が務めた。2008年のファイザーは新規助成の委員長を武井秀夫氏が、継続助成の委員長を赤塚光子氏が務めた。なお、各委員長の着任時の肩書きは以下のとおり。

山岡義典:日本NPOセンター常務理事、清水幹夫:法政大学現代福祉学部教授、武井秀夫:千葉大学文学部教授、赤塚光子:立教大学コミュニティ福祉学部教授、西村秀俊:元朝日新聞論説委員、渡辺元:市民社会創造ファンド運営委員長、谷口奈保子:ばれっと理事/ばれっとインターナショナル・ジャパン代表、播磨靖夫:たんぼぼの家理事長、島田京子:日本NPOセンター副代表理事、明石要一:千葉大学教育学部教授、樺山紘一:印刷博物館館長/東京大学名誉教授

*5 市民社会創造ファンド運営委員長・副運営委員長の合議による。